



ポーランド国歌のお話



2010年10月の懇親会で、ポーランド国歌を教えてくださいいただきみんなで歌い、マズルカの舞曲を取り入れたその曲の美しさに感動しました。その後「国歌のことも書いた本を見つけたので」と会員の方から紹介されました。その本の一部をご紹介します。

「東ヨーロッパの歴史は、ひと口にいて、民族興亡の歴史だといえる。中でもポーランドは約 200年の長きにわたって、国家興亡の歴史を繰り返している。その間、幾多の著名な詩人、作曲家が出ているが、それだけ優れた愛国歌、国民歌が数多く生み出されている。〈…〉ポーランドは民俗音楽の宝庫である。もちろん、音楽はスラブ系だが、といってロシアとはかなり異質なものである。なぜなら、カトリック教会の影響と共に、早くから西ヨーロッパ音楽の洗礼を受けていたからである。〈…〉マズルカもポロネーズと共に、この国が生んだ楽聖ショパンにより有名になった。〈…〉ショパンも、マズルカやポロネーズなど、祖国の民俗音楽を芸術化した名作をたくさん書いている。〈…〉この国の国歌も、やはりこのマズルカを取り入れた曲である。国歌になった歌曲は『ドンブロフスキのマズルカ』といわれ、歌詞はユゼフ・ヴィビツキ (Józef Wybicki) によって作詞されたが、作曲者はいまだに明らかにされていない。作詞者ヴィビツキは、ポーランド国家の滅亡 (1795年) 前から愛国的文人および政治家として知られ、ポーランド滅亡後はフランスに亡命、同じく亡命中のドンブロフスキ將軍を援けて、祖国再興のためのポーランド人部隊の組織に尽力し、のちに帰国、最後はポーランド王国の大審院長官を勤めた人物だということである。この国歌は、1794年の独立革命戦争から生まれたといわれているが、その由来をもう少し詳しく話してみよう。

時は西暦 1794 年春〈…〉その前年の露独両国による第 2 回ポーランド分割に悲憤やるかたのなかったポーランド国民は時の貴族政府と異国の侵略者たちに対して救国の大叛乱を起こした。総大将として采配を振ったのは、フランスの陸軍大学を卒業し、アメリカの独立戦争に参加して、同戦争史に輝かしい一ページを残し、帰国後もロシア軍との戦い (1792 年) に大活躍をしたタデウシュ・コシチュシコであった。だが、ポーランド愛国歌者たちの最後の

蜂起も、わずかに当初幾つかの個々の勝利をおさめただけで、半年あまりで弾圧され、コシチュシコ自身は負傷の上ロシア軍に捕えられ、ペテルブルグの牢に入れられてしまった。それだけではない。この叛乱がかえってアダとなり、翌年露、独、奥 3 国によって第 3 回分割が行われ、ポーランド国家は遂にヨーロッパ地図の上から完全に抹殺されてしまった。事志と違ったポーランドの愛国歌者たちはあいついで外国に亡命した。ヤン・ヘンリク・ドンブロフスキ將軍 (Jan Henryk Dąbrowski) も、その一人で、パリに亡命し、そこで再挙の機をうかがっていた。まもなく仏、奥の間に戦争が始まり、ナポレオンが仏軍総司令官としてイタリアに出陣することになった。ドンブロフスキは好機いたれりと、ナポレオンに対し、ポーランド人部隊を組織し、仏軍に協力してオーストリアを打ち破りたい旨を申し入れた。ナポレオンはかれの希望をいれた。ドンブロフスキは急ぎポーランドの愛国歌者たちへけっ起の檄を飛ばした。やがてドンブロフスキの下には、各地に亡命中のポーランド人ばかりでなく、露、独、奥 3 国の支配下にあった旧ポーランドからの参加者も、ぞくぞく集まってきた。この混じりつけない純粋なポーランド人部隊は、破竹のいきおいのナポレオン軍の中でも、特に勇敢な部隊として名声があがり、ナポレオンはこの部隊を信頼して、しばしば最も危険な部署に差し向けたが、部隊はいつもナポレオンの期待にそむかぬ働きをしたといわれている。

異郷の野に、山に、ひたすら祖国の再興を念じながら、昼は硝煙弾雨の中をかけまわり夜はかがり火をたいて仮寝の夢をむさぼった亡国ポーランドの志士たち、その志士の一人であったヴィビツキが、日頃のたしなみで歌詞を作り、仲間の誰かがそれに曲をつけてドンブロフスキ部隊の全員が、みずからを慰め、お互いを鼓舞するため歌い合った歌、その歌が実は、今日でもなおポーランドの国歌として生きているのである。〈…〉正式国歌となったのは 1927 年である。」

(藤沢優著『国のシンボル』頌文社、1970 より)

氏間多伊子

*引用の人名はポーランド語の発音により改めました。

ポーランド国歌 **Jeszcze Polska nie zginęła**
Hymn Narodowy (1797)

Lyrics: Józef Wybicki

Unknown composer

Uroczyste z zapalem

(M. M. ♩ = 92)

1. Jesz-cze Pol-ska nie zgi - nę - ła, kie - dy my ży - je - my,
Co nam ob - ca prze-moc wzię - ła Sza - blą od-bie - rze - my.
!-4. Marsz, marsz Dą - bro - wski, Z zie - mi wło - skiej do Pol - ski,
Za two - im prze - wo - dem Złą - czym się z na - ro - dem.

Jeszcze Polska nie zginęła,
Kiedy my żyjemy,
Co nam obca przemoc wzięła,
Szablą odbierzemy.

Marsz, marsz, Dąbrowski,
Z ziemi włoskiej do Polski!
Za twoim przewodem
Złączym się z narodem.

Przejdziem Wisłę, przejdziem Wartę,
Będziem Polakami,
Dał nam przykład Bonaparte,
Jak zwyciężać mamy.

Marsz, marsz, Dąbrowski...

ポルスカいまだ滅びず
われら生きるかぎり
外つ国の力に奪われしもの
われら剣もてとり戻さん

“進め、すすめ、ドンブロフスキ
イタリアの地よりポルスカへ
汝の指揮のもと
われら国の民と結ばれん”

ヴィスワを越え、ヴァルタを渡り
われらポルスカの民とならん
ボナパルトのためしにない
われら勝利をば得ん

“進め、すすめ、ドンブロフスキ(リフレイン)”

(訳詞:坂東宏編『ポーランド入門』三省堂、1987より)



国歌

ポーランドは未だ滅びず
作詞 ユゼフ・ヴィビツキ / 作曲 不詳

「ポーランド軍団を率いる
ヤン・ヘンリク・ドンブロ
フスキ将軍」ユリウシュ・
コッサク画(1882)